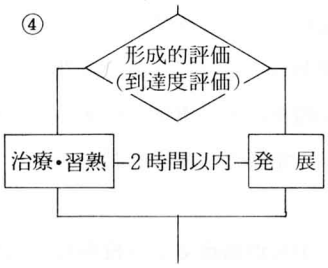
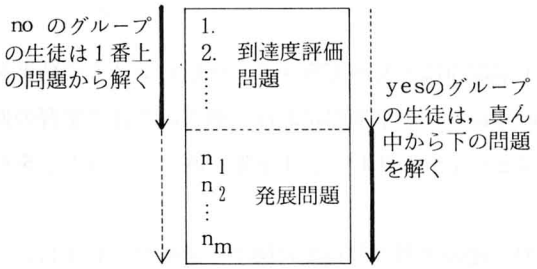
て形成的評価を行い，その時間に設定した目標の達成の程度をチェックし，個に応じたきめの細かい指導をするようにします。その場合のフィードバックには，（図18）のような方法が考えられます。



この部分は，その学習終了後，②で提示したものと類似の到達度評価問題によるテストを実施し，あらかじめ定めておいた到達基準，例えば，全問中85％以上の正答者は合格；yes，85％未満の正答者は不合格；no などによって，yes，no の二つのグループに分け，以下は各グループごとに指導することを意味します。すなわち，yesのグループには，主として発展の問題に取り組ませるようにし，no のグループに対しては，できるだけ指導の個別化を図って，つまずきを治療し，到達度評価問題が完全に解けるようになるまで習熟させます。なお，この場合，yes，no の二つのグループに与えるプリントは，上図のような，全く同じものを与えるなど，配慮します。



なお，このyes, no の二つのグループに対する指導形態としては，一人の教師が，1学級を二つに分けて指導するのが普通でしょうが，事情が許せば，次のような指導形態も考えられます。

- この時間だけ，もう一人の教師が手伝う。
- あらかじめ，時間割に，2学級同時展開の授業を組んでおき，yes の組1クラス，no の組1クラスに分けて二人の教師が指導する。

なお，初めに，一つの教材，配当時間はおよそ8時間以内，とした理由は，これ以上の時間をとりますと，この時点で生徒の学習内容が多く